



学校法人有朋学園
有朋高等学院 理事長講演会

効果の上がる学習方法を身に着けよう
—「学習の3段階理論」とは—

学校法人 有朋学園
理事長 林明夫
(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

日時：2016年5月27日(金)
14：00～15：30
会場：有朋高等学院 講堂

「学習の3段階理論」とは

お読みになりやすいように、QandAの形にしました。ご活用ください。

Q1：「学習の3段階理論」とは何ですか。

- A：(1)有朋学園の理事長を務め、また、栃木県・群馬県・茨城県に60校舎を展開する開倫塾という学習塾の創業者である林明夫塾長が、1979年の開倫塾の創業以来考え続けた効果の上がる学習の方法についての考えです。多くの皆様が学習する上で一番困っているのは、勉強の仕方がわからないことであるということを知り、取りまとめ始めたものです。
- (2)学習を「理解」「定着」「応用」の「3つの段階(ステップ)」に分け、3つの段階それぞれにふさわしい学び方をわかりやすく具体的に例で示した、例示したのがこの「学習の3段階理論」です。
- (3)①「理解」とは、今学んでいることが「よくわかること」と定義します。
②「定着」とは「『理解』したことを身に着けること」と定義します。
③「応用」とは「『理解』『定着』したことを用いてテストでよい点数を取ること、社会で役立てること」と定義します。
- (4)大切なことについて一つ一つのことばの意味を「定義」し、ことばの意味の価値を大切にしたいと考えます。

Q2：ところで、「定義」とは何ですか。

- A：(1)「ことば」の意味について、ものごとの本質とは何かを「価値(大切さ)」「意味」「秩序」の3つの点から考え抜き、できるだけ「定義」付ける取り組みをお勧めします。
- (2)1つ1つのものごとを行うときには、
①まずは、各々の「価値(大切さ)」をよく理解すること。
②その上で、自分なりに「意味付け」をすること。
③「だから、これはこのように行おう、これは行わないようにしよう」と、自分なりのルール、きまりを決め、「秩序」立った行動をすること、自律的に活動することが大切と考えるからです。
- (3)このように「価値」「意味」「秩序」を大切に考えた上で、「自律的に活動する能力」を育成することが大切です。
- (4)以上の理由で、ことばの意味を明確にすること、「定義」を大切にすることをお勧めします。
- (5)ものごとに取り組むときには、自分なりの「定義」を考えることを、有朋高等学院の皆様にご希望します。

Q3：第1段階の「理解」とは何ですか。

A：(1)「理解」とは「うんなるほどとよくわかること、納得すること、腑(ふ)に落ちること」と「定義」します。

(2)「理解」には、自分一人で学ぶ場合、更には新聞やTV、インターネット、本などを通して教えて頂く場合もあります。自学自習の場合と、他人、つまり先生などから授業などで教わる場合があります。

*もちろん、家族や友人、知人、社会の人々から教えて頂く場合もあります。

(3)「授業中の理解」のポイントは何か。

- ①手を机の上に置き、先生の日や口もとを見て一言も聞き漏らさないように真剣にお話を聞くこと。
- ②先生の指示に従って積極的に授業に参加すること。
- ③「必要なことはすべてノートを取る」こと。「ノートを取る」ことができるのは、極めて高い言語能力の1つです。
- ④遅刻、欠席、早退、居眠り、おしゃべり(私語)、ケータイ、スマホ、ボーッとしていることは、「授業での理解」を著しく妨げます。ですから、できるだけ避けましょう。
- ⑤授業中によくわからないことがあったら、先生の許可を得て、積極的に質問しましょう。意見があったら、先生の許可を得て積極的に発言しましょう。

(4)「自分で理解」するときのポイント(「予習」、「復習」、「自学自習」のポイント)は何か。

- ①まず「学習する教材」を決め(「教材決め」)、先生のお話を有朋高等学院の教室でお聞きするような真剣さで、教材に書き記してある一語、一語を真剣に読み、これはどのようなことかを知る、「理解」する努力をすること。
- ②教科書などの教材に書いてある語句の意味がよくわからないときには、「気持ちが悪い」と思い、「辞書」や「用語集」、「参考書」などを用いてその意味を調べる。調べた内容は、必ず「ノートに書き写す」こと。「書き写した」ことは、その場で覚えること。
*「意味調べノート」は絶えず1ページ目から読み直すと、「ことばの数」、「語彙(ごい)数」が確実に増え、全教科の学力向上に直結します。
- ③「計算」や「問題」はすべて自分の力で「ノート」に解いてみる。答えを書いてみる。
- ④「何がよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨むこと」が「予習の意味」です。
*「予習」とは「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」と「定義」します。
*「予習」をして、十分に「理解」ができた内容については、次に説明する「定着のための3大練習」を自分の力でどんどん行うことをお勧めします。
- ⑤授業後、復習として「ノート」を見ながら授業を思い出し、すべての教材をもう一度学び直して「理解」を深めることも大切です。

*ノートをあとで見やすいように整理すること(ノート整理)と、「復習」のときには計算問題はすべてもう一度やり直すことをお勧めします。

Q 4 : 第 2 段階の「定着」とは何ですか。

A : (1)「定着」とは、「うんなるほどとよく『理解』した内容を、スミからスミまで身に着けること」と「定義」します。

(2)「定着」のためには①「音読練習」、②「書き取り練習」、③「計算・問題練習」の3つの練習が有効です。

(3)「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の3つの練習を、開倫塾では「定着のための3大練習」と「定義」します。

Q 5 : 「音読練習」とは何ですか。

A : (1)「音読練習」とは「うんなるほどと一度『理解』したことを、スラスラとよく読めるようになるまで、声を出して読む練習をすること」と「定義」します。

(2)もし可能であるならば、「スラスラとよく読める」ようになったら、大事なところだけでOKですから、「何も見ないでスラスラと口をついて出てくるようになる」までにすること。できれば、「スミからスミまですべて覚える」ことを目指してください。これを「暗誦(あんしょう)」といいます。「暗唱」という漢字を用いる先生もいます。

(3)音読練習が有効なのは、英語だけではなくありません。数学や理科を含め全教科に有効です。

(4)自動車の運転免許証の試験から、司法試験に至るまで、世の中で行われるありとあらゆる国家試験・資格試験にもこの音読練習は極めて有効です。

*できれば、「発音記号」もゆっくりでいいですから、何回も音読しましょう。

Q 6 : 「書き取り練習」とは何ですか。

A : (1)「書き取り練習」とは「音読練習をしてスラスラとよく読めるようになったことを、楷書(教科書の書体)で正確に書けるようになるまで書き取りの練習をすること」と「定義」します。

(2)「筆順」(文字を書く順序)も大切です。

(3)「何も見ないで書けるようになること」を「暗写」といいます。「暗記」という先生もいます。大切な内容は「暗写」・「暗記」を目指しましょう。このように音読練習をしたら、即、書き取り練習に励みましょう。

(4)地名や人名やものの名前などの固有名詞も、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をしましょう。

(5)学校時代に習い覚えた語句は一生役に立ちます。また、一生覚えています。ですから、「このことばの書き取り練習をするのは、一生で一回きり、今だけだ」と考えて、気持ちを込め

て書き取り練習をしましょう。

Q7：英語の書き取り練習はどうしたらよいのですか。

A：英語は「ブロック体」だけでなく、ゆっくりでいいですから、「筆記体」でも「美しく書く練習」をすることをお勧めします。

Q8：「計算・問題練習」とは何ですか。

A：(1)これは、「けいさん、ポチ、もんだいれんしゅう」と読みます。

(2)「計算・問題練習」とは「なぜそのような解答になるかがよく『理解』できた計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまで計算練習、問題練習を繰り返すこと」と「定義」します。

(3)ただし、なぜそのような答えになるかについて、よく「理解」していない計算や問題は、答えだけ覚えても、あまり意味がありません。まずは、教科書や学年別参考書などで「理解」に努めてください。どうしてもよく「理解」できなければ、有朋高等学院の先生にどんどん質問してください。納得するまで、十分にわかるようになるまで何回でも質問してください。お友達どうしても教え合ってくださいね。

Q9：「定着のための3大練習」をする上で大切なことは何ですか。

A：(1)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾塾長 小泉信三先生のことばがあります。

「定着のための3大練習は不可能を可能にする。学校成績の大幅向上、希望校合格、3大検
定毎年合格を可能にする」と考えます。

(2)ただし、「定着のための3大練習」の大前提は、「授業」や「自習(自己学習)」で「定着」させるべき内容が「うんなるほど」とよくわかっていること、つまり十分に「理解」していることです。

(3)十分に「理解」していない意味・内容でも、「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」を繰り返すうちに少しずつわかってくるという考えもあります。そのようなこともありますが、「定着のための3大練習」をする前に、内容の「理解」に向けての取り組みを、まずは行うべきと考えます。

(4)「ここに書かれていることは、どのような意味なのか」、また、「なぜこのような解答になるのか」などと、その「意味」や「価値(大切さ)」を十分に「理解」した上で、「定着のための3大練習」を行い、「理解」したことをスミからスミまで身に着けてください。

(5)「定着のための3大練習」は、「学校の定期試験・実力テスト」「すべての入学試験」「すべての模擬試験」「3大検定(英語検定、漢字検定、算数・数学検定)」、国家試験、資格試験などでも絶大な効果を発揮します。

(6)更に大切なのは、「授業中に取ったノート」や「意味調べノート」、「間違いノート」、「まとめノート」など、自分で作ったありとあらゆるノートを用いて、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を行い、「ノートをスミからスミまで覚え切る」ことです。

*ですから、覚えやすいように、いつも「ノート」を「整理」し続け、自分にとってのテキスト、「ノートブック」として活用することです。これらはすべて大切な「能力」です。

Q10:「応用」とは何ですか。

A : (1)「応用」とは、「理解」し、「定着」したことを活用して、「試験でよい点数が取れること」と「社会で役立てることができること」と「定義」します。

(2)「学校の定期試験や実力テストで100点満点が取れること」、「入学試験や検定試験、資格試験、国家試験、採用試験等で合格点が取れること」と「定義」します。

(3)試験でよい点数を取るためには、「理解」、「定着」を図った上で「過去問」と「予想問題」を繰り返し学習することが最も効果的です。

(4)「過去問」とは、「その試験で過去に出題された問題」と「定義」します。

①多くの試験には「過去問」があります。試験の2～3か月前から「過去問」を数年分、最低でも5～6年分、できれば10年分以上を5～6回繰り返して学習すること。

②最低でも5～6年分、できれば10年分以上の「過去問」の「本文」・「設問」・「選択肢」・「解答・解説」のすべてについて、「辞書」や「用語集」、「参考書」を用いて「理解」を図ること。十分に「理解」したあとは、「定着のための3大練習」を徹底的に行うこと。

③「間違いノート」と「まとめノート」を作成すること。

(5)「予想問題」も「過去問」と全く同じ手順を踏んで学習すること。

①例えば、開倫塾の「定期試験対策予想問題」、「模擬試験対策予想問題」、「入学試験対策予想問題」、「3大検定試験対策予想問題」などの「的中率」が極めて高いことは、定評があります。

②それらを授業などで解き、答え合わせをしたあとで、5～6回解き直し、辞書や参考書を用いて「理解」を図り、「定着のための3大練習」を繰り返すことは、絶大な効果があります。

(6)何年分の過去問に挑戦したらよいかは、試験の難易度によります。また、受験生の熱心さによります。どんな試験でも絶対に合格を目指すなら、最低でも5～6年分、ふつうは10年分以上、熱心な人は15～20年分以上、各々5～6回以上挑戦するようです。

Q11:社会で役立てる「応用」を図るためにはどうしたらよいですか。

A : (1)すべての科目の学習は、学問体系に従ってでき上がっていますので、積み重ねが大切です。

(2)ですから、今、学んでいることは、上級学年や上級学校ですべて役立ちます。

①小学校で学んだことは、中学校で役立ちます。

- ②中学校で学んだことは、高校で役立ちます。
 - ③高校で学んだことは、大学・短期大学・専門学校・大学院で役立ちます。
 - ④高校や大学等で学んだことは、すべて社会で役立ちます。
 - ⑤ですから、その学年で学ぶことは、その学年で身に着けましょう。
 - ⑥今通っている学校で学ぶことは、在学中にすべて身に着けましょう。
- (3) このように、上級学年や上級学校、社会で役立てるためには、学校で、今学んでいること、今までに学んだことを、必要に応じて即座に引き出せなければなりません。
- (4) ですから、大切なことは、今、有朋高等学院で学んでいる教科書・教材・資料・参考書、授業ノートは絶対に処分しないことです。できれば、すぐに取り出して見られるように、一生にわたって常に身近に置いておくことです。
- (5) 有朋高等学院を卒業後、大学や短期大学、専門学校、職場など、様々なところで学ぶ教科書や教材、ノートなども絶対に処分しないことです。
- (6) 何かものごとを考えるときには、ゼロから考えることも大切ですが、教科書やノートなどを用いて、学校で学んだことをもう一度学び直してから考えることは、もっと大切です。

Q12 : 「学力」とは何ですか。

- A : (1) 「学力」とは「主体的に学ぶ力」と「定義」します。「自分から進んで学ぶ力」が「学力」です。
- (2) 「学力」が身に着くとどうなるか
- ①「多様な選択肢」のある人生を歩むことができます。
 - ②「正常に機能する社会」「持続可能な社会」の形成に役立ちます。
- * 自分のためにもなるし、みんなのためにもなります。
- (3) この意味での「学力」を身に着けるためには、「ハードな長時間自己学習」ができる能力を身に着けることが求められます。
- (4) 「学習の3段階理論」をやり抜くには、「ハードな長時間自己学習」と「主体的に学ぶ力」が不可欠です。

Q13 : 「ハードな長時間自己学習」ができるのは大切な能力なのですか。

- A : (1) その通りです。何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むという意味での「予習」には、膨大な時間が必要です。
- (2) ことばの意味を調べたり、計算や問題を解くのに、ノート整理をするのに時間もかかります。
- (3) 十分に「理解」した内容について、スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」をし、楷書で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をし、計算や問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るまで「計算・問題練習」をするのに膨大な時間を要します。

- (4)最低でも5～6年分以上、できれば10年分以上の過去間に5～6回挑戦し、「間違いノート」「まとめノート」を作成するのにも膨大な時間を要します。
- (5)この「ハードな長時間自己学習」をすることができるのは、大切な能力です。この能力はすぐには身に着きません。しかし、一度身に着けば、この能力は上級学年や上級学校でも、また、社会に出てからも、本気で勉強するとき・本気でものごとに取り組むときに必ず役立つ能力です。一生役に立つ能力です。
- (6)現代は「知識社会」です。知識が基盤となった社会で生き抜く上での大きなヒントが、学校で学んだ内容の中にたくさん含まれています。
- (7)自覚を持って「主体的に学ぶ」中で、この「ハードな長時間自己学習」を行う能力を少しずつでも身に着けてください。



Q14：「教育の成果を決定する要因」とは何だと考えますか。

A： (1)「本人の自覚」と「先生の力量」だと考えます。

(2)「何のために学ぶのか」「進学をした学校で何がしたいのか」「何のために働くのか」「社会に出て何がしたいのか」「どのような人生を歩みたいのか」などを自分の力で考える。自分なりに「高い志」を立て、そのために今何をしなければならないかを「自覚」して「主体的に学ぶこと」が大切だと考えます。

(3)何のためによい学校に進学を希望する人が多いのか。その理由の1つは、よい学校には、自分の潜在能力を伸ばしてくれる「力量のある先生」がいると考えるからだと思います。

Q15：自覚を持って学ぶにはどうしたらよいかお話しください。

A： (1)①何のために学ぶのか、②何のために進学するのか、③学校を卒業してどのような仕事がしたいのか、④どのような活動がしたいのか、⑤どのような生き方がしたいのかなどを少しずつでも自分の力で考えることです。

(2)その上で、自分の長所や、取り組むべき課題を自分の力で見つけて、よいところはどんどん伸ばす。直したほうがよいところは、少しずつでも直すことです。

(3)そのときに役立つのが、本をじっくりと読むこと、つまり、本格的な「読書」と、「新聞」を毎日一面からなめるように読むことです。

①本を読んでいて心に残った文章や語句があったら、たとえ一行、一文字でもいいですから「書き抜き読書ノート」に書き写すこと。書き写した文章や語句を繰り返し読むと、「思慮深さ」が身に着きます。

②読書によって得られるのは「思慮深さ」です。

(4)「新聞」も役立ちます。

①「新聞は社会の番犬(watch dog ワッチドッグ)」です。

社会の問題点や課題、素晴らしいこと、みんなに知ってもらいたいことをワンワンと吠えて教えてくれるのが、「新聞」の役割、社会的使命(Mission、ミッション)です。

②新聞を読んで興味、関心を持ったことがあったら、その記事を切り抜き「スクラップブック」にはり付け、何回も読み直すことをお勧めします。

③新聞を読んで身に着く能力は何か。世界や日本、地域の出来事を知る力、自分で考える力、「批判的思考(critical thinking クリティカルシンキング)能力(これはちょっとおかしいのではないかと自分で考える力)」です。

(5)本や新聞、教科書や教材などを読んでいて、よくわからないことがあったらどうするか。

①「気持ちが悪い」と思い、辞書を用いて意味を調べること。

②調べたことは「意味調べノート」に書き写すこと。

③「意味調べノート」をいつも1ページ目から読み直すこと。

④このようにして辞書を活用して得られるのは「ことばの力」「語彙(ごい)力」です。「ことばは力」、身に着ける「ことばの数」「語彙数」は「力」です。

(6)「読書」「新聞」「辞書」の活用で得られるのは「読解力」です。読解力こそが「主体的に学ぶ力」という意味での「学力」の原点で、自覚を持って学ぶことに直結します。

Q16 : 本や新聞は、毎日読んだほうがよいのですか。

A : (1)もちろんです。高校生として教科の勉強と同じくらい大切なのが、本をじっくりと読むこと、つまり、本格的な読書と、新聞を毎日読むことです。

(2)どんな本を読んだらよいのか。教科書や先生方が紹介して下さる本、できれば、いろいろな分野で長い間読み継がれている本、「古典」とよばれる本を図書館や書店で見つけ、借りたり買ったりしてゆっくりと読む。そして、「時空(じくう、時間と空間)を超えた著作者との対話」を読書の醍醐味としてくださいね。

(3)家で購読している新聞は毎日必ず読む。時々は図書館でいつもと違う新聞をじっくりと読む。

Q17 : 高校時代に身に付けておいたほうがよいことは何ですか。

A : (1)「5S」

①「整理」(seiri) 不要なものを捨てる

②「清掃」(seisou) きれいに掃除をする

③「整頓」(seiton) すぐにサッと出せるように、同じところに置く

④「清潔」(seiketsu) ①～③を継続する

⑤「躰」(shituke) 自分から進んでやる、決めたことを守る

(2)別の意味の「躰」

①美しい立居振舞い



* After you お先にどうぞ

②敬語表現を含む言葉遣い

(3)元氣なあいさつ(感謝のことばも)



Q18 : 最後に好きなことばを教えてください。

A : (1)「会った人は皆友達」(石川洋先生)

(2)「目には遠いが心は近い」(インドのことわざ)

(3)「教育ある人とは学び続ける人、一生学び続ける人」(ドラッカー先生)

(4)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

(5)「健康第一、身体健康と、心の健康は大切に」

*人生は長いのでゆっくりいきましょう。

皆様の好きなことばをあとで教えてくださいね。

— 2016年5月26日林明夫記 —

